九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[015] 言語文化論究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/5458

出版情報：言語文化論究. 15, 2002-02-15. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

退官教官研究業績表

青 山 太 郎 教 授

Ⅰ．著書

1．「ニコライ・ゴーゴリ」656頁　河出書房新社　1986年９月．

Ⅱ．論文

1．"Conception de l'intelliguentsia russe dans les premiers ouvrages de Nicolas Berdiaev"（初期ベルジャーエフの著作におけるロシア・インテリゲンチャの概念）Université de Paris Ⅲにて doctorat de 3e cycle に提出．1977年３月審査終了．（未刊行）
2．「国家・革命・教会（ベルジャーエフのロシア・インテリゲンチャ批判）」『思想』昭和52年２月号　47-66頁．岩波書店，1975年．
3．「『アンナ・カレーニナ』に現れたトルストイの思想」『文学のなかの人間像』157-180頁．九州大学出版会，1980年４月．
4．「メイエルホリトとソヴィエト20年代の戯曲」『現代の文学』225-247頁．九州大学出版会，1983年12月．
5．「ロシア・アヴァンギャルドについて留意すべきこと」『ロシア手帖』第17号，17-23頁．ロシア手帖の会，1983年12月．
6．「ベルジャーエフのナロード観Ⅱ」『言語文化論究』第１号，31-39頁．九州大学言語文化部，1990年３月．
7．「ベルジャーエフのナロード観Ⅱ」『言語文化論究』第２号，15-22頁，1991年１月
8．「現代ロシア文学の過渡的状況について」『早稲田学報』平成３年12月号　24-28頁．早稲田大学校友会，1991年12月．
9．「ソロヴィヨフとベルジャーエフ ── '新たな宗教意識'の系譜」『言語文化論究』第３号，1-9頁，九州大学言語文化部，1992年１月．
10．「西洋文学における変身のテーマ」『言語文化論究』第５号，47-56頁．九州大学言語文化部，1994年３月．
11．「ロシアの性愛論Ⅰ　トルストイの『クロイツェル・ソナタ』」『言語文化論究』第６号，149-158頁．九州大学言語文化部，19957年３月．
12．「ロシアの性愛論Ⅱ　ソロヴィヨフの『愛の意味』」『言語文化論究』第７号，73-82頁．九州大学言語文化部，1996年３月．
13．「ロシアの性愛論Ⅲ　ソロヴィヨフとベルジャーエフ」『言語文化論究』第８号，215-229頁．九州大学言語文化部，1997年３月．

14. 「ロシアの性愛論Ⅳ　ローザノフ１」『言語文化論究』第９号，81-94頁．九州大学言語文化部，1998年３月．
15. 「ロシアの性愛論Ⅴ　ローザノフ２」『言語文化論究』第10号，133-145頁．九州大学言語文化部，1999年３月．
16. 「ロシアの性愛論Ⅵ　ローザノフ３」『言語文化論究』第11号，77-95頁．九州大学言語文化部，2000年３月．
17. 「ロシアの性愛論Ⅶ　去勢派」『言語文化論究』第13号，121-137頁．九州大学言語文化部，2001年３月．
18. 「ロシアの性愛論Ⅷ　去勢派２」『言語文化論究』第14号，1-17頁．九州大学言語文化部，2001年７月．

Ⅲ．翻訳

1．リジヤ・チュコフスカヤ著「廃屋」(現代ロシヤ抵抗文集１）勁草書房，233頁．1970年７月．
2．アンドレイ・シニャフスキー著「エッセイ集」（共訳．現代ロシヤ抵抗文集２）勁草書房，190頁．1970年12月．
3．アンドレイ・シニャフスキー著「短篇小説集」(現代ロシア抵抗文集５）勁草書房，279頁．1971年９月．
4．ユーリー・アンネンコフ著「同時人の肖像」（全三巻．下巻未刊）現代思潮社，上巻　377頁，中巻357頁．1971年１月，３月．
5．フョードル・ソログープ著「小悪魔」河出書房新社，1972年12月．
6．ウラジーミル・ナボコフ著「ニコライ・ゴーゴリ」（現代文芸評論叢書）紀伊国屋書店，186頁．1973年２月．
7．ニコライ・ゴーゴリ著「ディカーニカ近郷夜話　第二部」（全集第一巻）河出書房新社，178頁．1977年６月．
8．レオニード・レオーノフ著「ブルイガ．卑小な人間の最後」（世界文学全集第四十二巻）学習研究社，214頁．1979年８月．
9．ニコライ・ベルジャーエフ著「創造の意味 ── 弁人論の試み」（著作集第四巻）行路社，558頁．1990年７月．
10. ユーリー・エラーギン著「暗き天才　メイエルホリト」みすず書房，453+XX 頁．1992年５月．
11. アレクサンドル・ジノヴィエフ著「カタストロイカ」晶文社，298頁．1992年７月．
12. ニコライ・ベルジャーエフ著「新たな宗教意識と社会性」（著作集第二巻）行路社398頁．1994年11月．

Ⅳ．解説　資料

1．「ナウカ社版ゴオゴリ全集（昭和９年，全６巻）復刻版解説」日本図書センター第６巻巻末　1-16頁．1996年３月．

2．「ストラパローラ梗概」『言語文化論究』第12号，155-166頁．九州大学言語文化部 2000年８月．

退官教官研究業績表

新 保 弼 彬 教 授

Ⅰ.著書

1．これからのドイツ語（共著）385頁　郁文堂　1980年.
2．アポロン独和辞典（共著）1901頁　同学社　1994年.
3．新アポロン独和辞典（共著）1891頁　同学社　2000年.
4．ドイツトラベル会話辞典（共著）296頁　郁文堂　2001年.

Ⅱ.論文

1．"Die Unendlichkeit bei Goethe und Novalis"『かいろす』第５号，１-12頁，かいろすの会，1966年.
2．「若きゲーテのピエティスムス体験前後 —『詩と真実』を中心にして —」『独仏文学研究』第18号，９-18頁，九大独仏文学研究会，1968年.
3．"Die sprachliche Säkularisation des pietistischen Wortschatzes in Goethes *Wilhelm Meister*"『独仏文学研究』第19号，39-55頁，九大独仏文学研究会，1969年.
4．「クロップシュトックの国語浄化論 —『メシーアス』の３歌章を中心にして —」『独仏文学研究』第20号，１-15頁，九大独仏文学研究会，1970年.
5．「Bürger の譚詩 *Lenore* の二重構造について — 踏跡の二重形態に関する一試論 —」『独仏文学研究』第21号，47-60頁，九大独仏文学研究会，1971年.
6．「18世紀の書簡体小説と『若きヴェルテルの悩み』」『かいろす』第９／10号，１-８頁，かいろすの会，1972年.
7．「J. J. Engel の小説論と書簡体小説『ヴェルテル』」『独仏文学研究』第24号，55-67頁，九大独仏文学研究会，1974年.
8．「18世紀における対話体書簡論の形成 — ゲラートと若きゲーテを中心にして —」『独仏文学研究』第25号，19-34頁，九大独仏文学研究会，1975年.
9．「『ヴェルテル』成立時代の小説論 — 書簡体小説の構成原理 —」『ゲルマニスティクの諸相』，39-53頁，高橋義孝先生還暦記念論集刊行会，1975年.
10．"Friedrich von Blanckenburgs Rezeption des *Werther*—*Vom Versuch über den Roman zur Rezension*"『かいろす』第15号，81-94頁，かいろすの会，1977年.
11．"Die innerpietistische Säkularisation des Bekenntnisbriefes", *Deutsche Vierteljahrsschrift für Literaturwissenschaft und Geistesgeschichte* 第56巻第２号，198-224頁，1982年.
12．"Vernunft als Kontrollinstanz gegen Schwärmerei und Aufklärung in Jung-Stillings

Theobald oder die Schwärmer und *Theorie der Geisterkunde*”『ドイツ文学・語学論集』，35-49頁，西田越郎先生退官記念論集刊行会，1985年.

13. “Karl Philipp Moritz' Versuch einer Synthese von Schwärmerei und Aufklärung －Zur Genese eines neuen Geistersehers”『独仏文学研究』第37号，103-122頁，九大独仏文学研究会，1987年.
14. “Werther als Schwärmer －Zur Genese eines heterogenischen Geistersehers－”『ゲーテ年鑑』第30巻，19-33頁，日本ゲーテ協会，1988年.
15. “Über Johann Heinrich Jung-Stillings *Theorie der Geisterkunde*”, *Zeitschrift für Parapsychologie und Grenzgebiete der Psychologie* 第30巻，243-250頁，フライブルク大学超心理学研究所，1988年.
16. “Kerners Parapsychologie im Lichte des Jung-Stillingschen Geisterkunde”『ユスティーヌス・ケルナー生誕200年記念国際シンポジウム論集』，311-320頁，J. ケルナー協会及びフライブルク大学医史学研究所，1988年.
17. “Toleranzidee und origenistische Liebesauffassung in Goethes Jugendwerk”『他者との出会い』第11巻，85-94頁，国際ドイツ語・ドイツ文学会（IVG）発行，1991年.
18. “Lessing und die Lehre von der Apokatastasis －Ein Beitrag zur Erhellung origenistischer Elemente in Lessings *Leibniz von den ewigen Strafen*”『九州ドイツ文学』第５号，１-10頁，九州大学独文学会，1991年.
19. 「世俗化理論の歴史的展開とその諸相(1)」『言語文化論究』No. ５，37-45頁，九州大学言語文化部，1994年.
20. 「ゲーテの初期書簡集にみられる敬虔主義言語の世俗化について(1) ― ゲーテ・テキストデータベース利用に関する一試論 ― 」『独仏文学研究』第44号，59-77頁，九大独仏文学研究会，1994年.
21. “Geisterkunde und Apokatastasis-Rezeption bei Lavater und Jung-Stilling”, *Das Antlitz Gottes im Antlitz des Menschen* 敬虔主義歴史研究叢書第31巻（Vandenhoeck & Ruprecht），102-113頁，J. K. ラーヴァーター生誕250年記念国際シンポジウム論集刊行会，1994年.
22. 「ゲーテの初期書簡集にみられる敬虔主義言語の世俗化について(2)」『言語文化論究』No. ６，81-91頁，九州大学言語文化部，1995年.
23. “Der Terminus *still* beim jungen Goethe －Eine computergestützte Fallstudie zum *Werther*-Roman”『ロゴスとポエジー』，176-190頁，伊藤利男先生退官記念『ドイツ文学・語学論集』刊行会，1995年.
24. 「ゲーテの初期書簡集にみられる敬虔主義言語の世俗化について(3)」『独仏文学研究』第46号，29-45頁，九大独仏文学研究会，1996年.
25. “Goethes frühe Briefe und der Briefroman *Werther*. Eine computergestützte Studie zum Wortschatz der Frömmigkeit”『ゲーテ年鑑』第40巻，69-83頁，日本ゲーテ協会，1998年.
26. 「世俗化理論の歴史的展開とその諸相(2)」『独仏文学研究』第50号，95-108頁，九大独仏文学研究会，2000年.

27. "*Nachricht von meiner Audienz beim Kaiser von Japan* —Zur Kaempfer-Rezeption bei Matthias Claudius", *Schwellenüberschreitungen* Dokumentation 第1巻, 111-123頁, アジア・ゲルマニスト会議論集（日本独文学会編), 2000年.
28. 「見霊者ゲーテとその文学(1)」『言語文化論究』No. 13, 43-54頁, 九州大学大学院言語文化研究院, 2001年.
29. "Zur Genese der Schwärmergestalt in Schillers *Geisterseher*", *SUEVICA. Beiträge zur schwäbischen Literatur- und Geistesgeschichte* 第8巻, 139-156頁, 2001年.
30. 「見霊者ゲーテとその文学(2)」『言語文化論究』No. 14, 31-50頁, 九州大学大学院言語文化研究院, 2001年.
31. "Matthias Claudius und die Aufklärung im Spiegel der Kaempfer-Rezeption", *Pietismus und Neuzeit* 近代プロテスタンティズムの歴史年鑑第27巻, 53-67頁, ハレ・ヴィッテンベルク大学・敬虔主義・学際研究センター編（Vandenhoeck & Ruprecht), 2001年.
32. 「見霊者ゲーテとその文学(3)」『言語文化論究』No. 15, 91-103頁, 九州大学大学院言語文化研究院, 2002年.

Ⅲ. 書評, 報告, 解説

1. 書評：Johann Henrich Reitz 著 "Historie der Wiedergebohrnen"『独仏文学研究』第33号, 239-244頁, 九大独仏文学研究会, 1983年.
2. 解説：「C. F. ゲラート」,「J. H. フォス」,「G. A. ビュルガー」,「F. ブランケンブルク」,「ミュンヒハウゼン物語」の各項目.『日本大百科全書』, 小学館, 1986年.
3. 報告：「モーリッツとユング-シュティリング」『ドイツ文学』第82号, 219-220頁, 日本独文学会シンポジウム報告, 1989年.
4. 報告：「第17回西日本ドイツ語教授法ゼミナール報告」『西日本ドイツ文学』第5号, 93-101頁, 日本独文学会西日本支部, 1993年.
5. 書評：Gerhard Schwinge著 "Jung-Stilling als Erbauungsschriftsteller der Erweckung", *Pietismus und Neuzeit* 近代プロテスタンティズムの歴史年鑑第22巻, 281-286頁, ハレ・ヴィッテンベルク大学・敬虔主義・学際研究センター編（Vandenhoeck & Ruprecht), 1996年.
6. 書評：伊藤利男著「孤児たちの父フランケ — 愛の福祉と教育の原点 —」『西日本ドイツ文学』第13号, 103-106頁, 日本独文学会西日本支部, 2001年.

Ⅳ. 教科書

1. 「シンタクス中心ドイツ語文法」（根本との共著), 110頁, 三修社, 1972年.
2. 「新編基本ドイツ語読本」（渡辺, 正岡との共著), 57頁, 郁文堂, 1974年.
3. 「変革期に立つティーンエイジャー」（ミヒェルとの共編), 64頁, 郁文堂, 1977年.
4. 「コンタクテ」（ミヒェルとの共著), 84頁, 郁文堂, 1979年.
5. 「世界の優等生ニッポン？ — シュピーゲルの日本批判」（ミヒェルとの共編), 42頁,

郁文堂，1983年.

6．「移りゆくアルプシュタット」（ミヒェルとの共著），40頁，白水社，1985年.

7．「コンタクテⅡ」（ミヒェルとの共著），58頁，郁文堂，1985年.

8．「ドイツ語基礎コース」（ミヒェルとの共編），124頁，郁文堂，1987年.

9．「トーアシュトラーセ12景」（ミヒェルとの共著），78頁，白水社，1988年.

10.「グリュック：ライン」（注釈・単編），47頁，郁文堂，1989年.

11.「リヒター：フリードリヒ ― あるユダヤ人少年の悲劇」（単編），49頁，郁文堂，1989年.

12.「黒は白」（ミヒェルとの共著），58頁，郁文堂，1990年.